

マスコミ各位

平成30年10月10日（水）

沖縄県保健医療部地域保健課 結核感染症班

担 当：久高、仁平

電 話：098-866-2215

風しん患者の発生について

1 報道関係者の方へ

県内では今年度初となる風しん患者の発生について、平成30年10月9日付で那覇市保健所より報道発表がありました。この度、2例目となる患者が確認されました。

2名の患者は発症時期が近いですが、症例間の関連や感染源については不明です。しかし、関東地方を中心に風しん流行が継続していることから、今後も県内で患者が発生する可能性があります。今後の感染拡大防止のため、以下の点について、県民への注意喚起を宜しくお願い致します。

なお、感染症法の趣旨に則り、患者やその家族・関係者について、本人等が特定されないことがないよう、格段のご配慮をお願いします。

- 風しんに感染しないためには、予防接種が重要です。風しんの定期予防接種対象（第1期：1歳になってから2歳になるまで、第2期：小学校に入学する前の1年間）の方は、早めに予防接種（MR ワクチン）を受けましょう。
- 妊婦は予防接種が受けられません。風しんに対する免疫が不十分、あるいは不明な妊娠初期の方は、なるべく人混みを避けるとともに、風しん流行地への訪問予定のある方は訪問延期をご検討ください。
- 妊娠を希望される方や妊婦の同居者（夫、子どもなど）は、かかりつけ医に相談し、抗体検査や予防接種を受けることについて積極的にご検討ください。
- 30代から50代の男性は、風しんの免疫が不十分な世代と言われています。この世代の方は、予防接種について積極的にご検討ください。

2 患者の情報

宜野湾市在住、40代、女性。直近の国外及び県外渡航歴はなし。

【経過】

10/2（火）発熱

10/3（水）発疹出現

10/4（木）中部保健所管内医療機関受診

当該医療機関から中部保健所へ、麻疹及び風しん疑い患者報告

10/5（金）中部保健所から衛生環境研究所へ検査依頼、検体搬入

10/9（火）衛生環境研究所の検査の結果、風しん遺伝子陽性（麻疹は陰性）

3 医療関係者の皆様へのお願い

医療関係者におかれましても予防接種歴の確認をしていただき、未接種者はワクチン接種を検討してください。

また、風しんを疑った、もしくは診断した際には、管轄保健所へ報告を行うとともに、接触者の確認や、感染拡大防止の対応をお願い致します。

4 県民の皆様へのお願い

風しん患者が周囲の人へ感染させる期間は、発疹が出る7日前から7日後までとされています。そして、風しんにおける最大の問題は、風しんに対する免疫が不十分な妊婦が妊娠初期(約20週まで)にかかると、生まれてくる赤ちゃんが「先天性風疹症候群」になり、目や耳、心臓に障害を持つ可能性があることです。

そのため、常日頃から手洗いや咳エチケットなどの感染防止対策を実施していただくとともに、発熱や発疹等の症状から風しんが疑われる場合、必ず事前に医療機関に連絡の上、受診してください。また受診の際は、マスクを着用し、公共交通機関等の利用を避けてください。

5 風しんについて

原因：風しんウイルス

潜伏期間：14～21日（平均16～18日）

主な症状：潜伏期間の経過後、発熱、発疹、リンパ節腫脹（ことに耳介後部、後頭部、頸部）が出現するが、発熱は風疹患者の約半数にみられる程度。また症状の現れない不顕性感染が、15～30%程度存在する。

感染経路：飛沫感染、接触感染

感染症法：五類感染症

予防：予防接種が有効